

デアメリンS錠 250mg

【この薬は？】

販売名	デアメリンS錠 250mg Deamelin・S Tablets 250mg
一般名	グリクロピラミド Glyclopamide
含有量 (1錠中)	250mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重篤な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するとき特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重篤な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、経口血糖降下剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、すい臓に作用しインスリン分泌を促進して、血糖（血液中の糖分）を下げます。
- ・次の病気の人に処方されます。
インスリン非依存型糖尿病（2型糖尿病）
（ただし、食事療法・運動療法のみで十分な効果が得られない場合に限る。）
- ・この薬は、糖尿病治療の基本である食事療法、運動療法を十分に行ったうえで効果が不十分な場合に限り、医師の判断により処方されます。
- ・この薬は、体調が良くなったと自己判断し、服用を中止したり、量を加減した

りすると、病気が悪化することがあります。指示どおりに飲み続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○この薬により、重篤で長く続く低血糖症（脱力感、強い空腹感、冷や汗、動悸、手足のふるえ、意識が薄れるなど）になることがあります。患者の皆様や家族の方は、[この薬を使う前に、確認すべきことは？]、[この薬の使い方は？] 及び [この薬の使用中に気をつけなければならないことは？] に書かれていることに特に注意してください。

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・重いケトーシス状態（深く大きい呼吸、意識がなくなる、手足のふるえ）、糖尿病性の昏睡状態になりそうな人、インスリン依存型糖尿病（1型糖尿病：インスリンがごく少量しか分泌されないか、あるいは全く分泌されないタイプの糖尿病）の人
- ・肝臓または腎臓に重篤な障害のある人
- ・重い感染症にかかっている人、手術をした人、または手術の予定がある人、大きな怪我をしている人
- ・下痢、嘔吐などの胃腸障害のある人
- ・過去にデアメリンS錠 250mg に含まれる成分やスルホニルウレア系経口血糖降下剤で過敏な反応を経験したことがある人
- ・妊婦または妊娠の可能性のある人

○次の人は、慎重に使う必要があります。飲み始める前にそのことを医師または薬剤師に教えてください。

- ・肝臓または腎臓に障害のある人
- ・脳下垂体機能に異常のある人、副腎機能に異常のある人
- ・栄養状態の悪い人、飢餓状態の人、食事が不規則な人、食事が十分に摂れていない人、衰弱している人
- ・激しい筋肉運動をしている人
- ・飲酒量が多い人
- ・高齢の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

使用量はあなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

一般的に飲む量および回数は次のとおりです。

- ・この薬は、通常1回半錠～1錠を飲みます。なお、1日に飲む最大量は2錠までです。
- ・この薬は、通常1日1回～2回、1回の場合は朝の食事の前または後、2回の場合は朝・夕それぞれ食事の前または後に飲むよう指示されます。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に服用してはいけません。(低血糖を起こすことがあります。) 指示された時間に飲み忘れたら、1回とばして次の指示された時間から服用してください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

- ・低血糖症状（脱力感、強い空腹感、冷や汗、動悸、手足のふるえ、意識が薄れるなど）があらわれる可能性があります。
- ・低血糖症状が認められるものの、意識障害がない場合は、通常は砂糖を飲食してください。α-グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース）を併用している場合は、ブドウ糖を飲んでください。なお、意識が薄れてきた場合は、医師に連絡してください。
- ・低血糖症状の一つとして意識障害を起こす可能性もありますので、この薬を飲んでいることを必ずご家族やまわりの方にも知らせてください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・低血糖症状（脱力感、強い空腹感、冷や汗、動悸、手足のふるえ、意識が薄れるなど）があらわれることがあります。高所作業や自動車などの運転中に低血糖を起こすと事故につながります。特に注意してください。
- ・低血糖症状が認められるものの、意識障害がない場合は、通常は砂糖を飲食してください。α-グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース）を併用している場合は、ブドウ糖を飲んでください。なお、意識が薄れてきた場合は、医師に連絡してください。
- ・低血糖症状の一つとして意識障害を起こす可能性もありますので、この薬を飲んでいることを必ずご家族やまわりの方にも知らせてください。
- ・この薬を使用中は、血糖値や尿糖等を定期的に検査する必要があります。
- ・不摂生や感染症の合併等により薬が効かなくなることがあります。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期に現れることが一般的です。


このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
低血糖 ていけつとう	冷や汗、空腹感、動悸、頭痛、脱力感、手足のふるえ、ふらつき、めまい
再生不良性貧血 さいせいふりょうせいひんけつ	階段や坂を上る時の動悸や息切れ、鼻血、動悸、息切れ、あおあざができる、めまい、歯ぐきの出血、出血が止まりにくい
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	発熱、のどの痛み

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷や汗、脱力感、ふらつき、発熱
頭部	頭痛、めまい
顔面	鼻血
口や喉	歯ぐきの出血、のどの痛み
胸部	動悸、階段や坂を上る時の動悸や息切れ、息切れ
腹部	空腹感
手足	手足のふるえ
皮膚	あおあざができる
その他	出血が止まりにくい

【この薬の形は？】

形状	長いだ円形の錠剤 
長径	13.0mm
短径	5.5mm
厚さ	4.2mm
重さ	325mg
色	白色
識別コード	KP-105

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	グリクロピラミド
添加物	結晶セルロース、乳糖水和物、カルメロースカルシウム、バレイショデンプン、ステアリン酸マグネシウム

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：杏林製薬株式会社 くすり情報センター
(<http://www.kyorin-pharm.co.jp/>)

電話：0120-409341

受付時間：9:00～17:30（土・日・祝日・弊社休業日を除く）